

平成29年度和良おこし協議会の取組み

和良町の各集落において、集落点検の推進とアクションプログラム支援を目的に、協議会メンバーと共に月例の推進会議を開催してきました。15自治会すべての自治会長や事業の推進関係者に声をかけをして、参加を促し2、3団体ごとに検討会を設けてきました。会議では集落の現状把握と課題、今後の取組に關しての支援方法などについて協議を行いました。

集落づくりに關しての支援事業では、「横野地区」における蕎麦栽培、他出子と呼ばれるイベントの開催、営農組合設立に向けた研修会、「下土京地区」の移住者を講師に高齢者でも食べやすいパン作り教室、親子を対象としたパン作り教室の開催。「宮代地区」では、



伝統と文化を後世に継承していく各集落のまつり
人口の減少や高齢化により存続に悩む集落も少なくない

みんなで楽しく集落づくり
各集落の課題や問題の解決に向けた支援

和良の郷だより

春号
4月1日号
和良おこし
協議会発行

和良おこし
協議会



地域づくりを学ばれた大学生による卒論発表会



和良でどんな事が出来るかな？意見交流会

ふるさとを後世に繋いでいくための勉強会と研修会を開催しました。「田平地区」、「東野地区」、「横野地区」における蛭に関する諸活動と和良蛭を守る会発足と活動支援。また、和良鮎まつりでは、「法師丸地区」の焼いも販売、「下土京地区」のパンの販売などを支援しました。

また、持続可能な集落をめざし、和良町を魅力ある地域となるよう、各種研修会等を実施しました。ひとつは、和良地域協議会との共同開催による、(社)トクノスクール農村研究所理事長の徳野貞雄氏を講師に「地域づくり講演会」を開催しました。これまでにやって来たT型集落点検からの集落事業のふり返りと、今後の展開に關しての意見交換を行いました。その他には、岐阜大学地域学部林琢也研究室の卒業生と、大阪産業大学人間環境生活学科川田美紀研究室の卒業生による地域づくりに關して、和良おこし協議会をテーマにした卒業論文の発表会を開催しました。また、和良地域協議会主催の郡上カンパニー参加メンバーによる



下土京では親子を対象にしたパン作り教室



郡上東中学校を卒業した皆さんの新成人の集い



わいわいと賑やかに鹿倉の恵方巻の会

「和良の郷未来に向けた意見交流会」を後援し、ふるさと和良で取り組んでいける事業の提案や、ふるさととの未来についての意見交換を行いました。

また、若年層へのふるさと帰郷を目指すべく、新成人を対象にした「新成人の集い」を開催し、ふるさと和良町への関わり方について意見交換を行いました。その他に、高齢者との交流機会を設け、各地で開催されている高齢者見守りサロンや、その他サロン活動を支援し、音楽を用いた交流、当該施設「わらおこし」を使用した各種体験イベントなども実施しました。集落づくりをはじめ、和良町への関係人口増加を高めるため、フェイスブックやその他の媒体において情報発信を継続的に実施して、ふるさと和良町への繋がりを推進してきました。それにおいて、地域内外、他出子からの声や、移住相談者の増加、地域に根差した活動を行う団体とも繋がりを深め、広くふるさとについて考えるきっかけの場を提供することが出来ました。

和良町の人口 平成30年4月1日現在

人口

1,700人

男性

826人

女性

874人

世帯数

650世帯

和良町に住みたい人と地域を繋ぐ

— 移住促進事業 —

和良おこし協議会では、移住・定住・交流による地域活性化への取組として、平成27年度からこれまで自治会と連携し、空き家を活用した移住を促進してきました。和良町に住みたいとお考えの方に、相談窓口として情報のご提供や、不安の解消といった側面からサポートします。そして、移住された後も集落に溶け込んで、地域のひとと顔を合わせながら、その集落の一員としての交流や自治会活動などにも参加し、前向きに暮らしていけるようにアドバイスも行います。

町内には多くの空き家がありますが、生活環境を整えるためには、大きな修繕を必要とする物件も多くあり、現状での貸し出しが難しい事もあります。移住希望者の増加に対して、紹介できる空き家を増やすため「郡上市空き家等地域振興補助金」を受け、旧教員住宅2棟を改修しました。この施設は移住促進賃貸住宅として、前年度改修した2棟と合わせて再活用します。

平成29年度は、初めて関東地区での移住相談会にも参加し、和良町の良さをPRする事も出来ました。そうして、和良おこし協議会を通じて各地から、5世帯12名の方が、和良町に魅力や可能性を感じて移り住んで来られました。「マチ」とは違う「ムラ」ならではの和良暮らしの第一歩を踏み出された皆さんと、集落に暮らす皆さん、それぞれがうまくやっていけるように、和良おこし協議会がパイプ役を務めながら、共に楽しい集落づくりを推進していきたいと考えます。



各地で開催される移住相談会にもブースを出す「いいあんばいに田舎」な和良町をご紹介

田舎らしい田園のある景観を保つ

— 田んぼオーナー制度 —

和良町でも高齢化や後継者不足によって遊休農地、耕作放棄地も年々増加の傾向にあります。町内外の方々と一緒に、お米の勉強をすることで、農業に関する問題の解決に向けた取組がもしできたら、それは素晴らしいことではないでしょうか？



お米について学んだり農作業で汗も流します
和良のお米めっちゃ美味しいよね！応援してるよ

「田んぼオーナー制度」と「ファームトラスト制度」は、大切な文化のひとつであるお米づくりを後世に残す為、地域と共に考えます。農作業に汗を流し、収穫の喜びを感じたい！そんな想いのある方と共に、田舎らしい景観を保つための活動です。

平成29年度、里山暮らしを体験出来る「田んぼオーナー制度」には34組、耕作放棄地や遊休農地化への対策活動を支援いただく「ファームトラスト制度」に10組、同じく企業で支援していただく「ファームトラスト制度企業会員」には3組のご参加をいただきました。

新緑が眩しい6月の田植えに始まり、炎天下の中で行う8月の草刈り、九頭の宮のおまつりに合わせた10月の稲刈り、皆で収穫の喜びを分かちあつた11月の収穫祭では餅つき体験も行いました。体験作業には毎回多くの方にご参加いただき、町内外の人が一緒になって汗をかき、笑顔で語らう場となりました。田んぼでの体験以外にも、旬の野菜の収穫体験や、季節を味わう田舎料理体験、お祭り体験、川遊びなど、和良町の自然や文化をいっぱい体験していただくことが出来ました。

今後も、和良町に暮らす人と、外から和良を応援してくださる人との交流を深めながら取組んで参ります。

和良町の自慢の宝をPRする

— 体験型ツーリズム事業 —

地域の自然、それらの環境を背景に営まれる文化・伝統などに着目し、参加者に地域の魅力を伝える体験型ツーリズム。

平成29年度は蜚観察地での観賞に訪れる人の対応に際し、6月・7月初旬にかけシャトルバスを6回運行し、18団体、約80名の地域の方々からご協力をいただいて運営にあたりました。約ひと月という短い期間にも拘わらず、現地を訪れた方は2,300人を数えました。また和良蜚を守る会による座学と食事がセットになった「蜚観賞ツアー」の実施。7月には初心者にもやさしい「和良鮎釣り教室」を和良川漁業協同組合のご協力をいただき開催しました。オオサンショウウオについて学んだ後、現地で実際に探す「はざこ探検隊」は岐阜大学の向井貴彦先生、伊藤潜水企画の伊藤義弘氏を講師に迎え8月に開催。鮎釣り教室とはざこ探検隊は、依頼を受け、9月にもそれぞれ特別開催日を設けて実施することも出来ました。

また3月には「鼻笛の吹き方の講習と紙の鼻笛づくり」のクラフト体験の実施。京都の染作家、岡田明彦氏による「ろうけつ染め体験教室」は9月と3月の開催となりました。

この1年間を通じ、体験型ツーリズムの参加者として94名の方が和良町を訪れて下さいました。

平成30年度も関係団体並びに有志の方々からご協力をいただきながら、更なる連携を深め、「和良って素敵だな所だね！」と多くの方に足を運んでいただけるように頑張っています。



蜚観察地には訪れる人をご案内する案内所も設置
有志による地域住民での運営が実現した